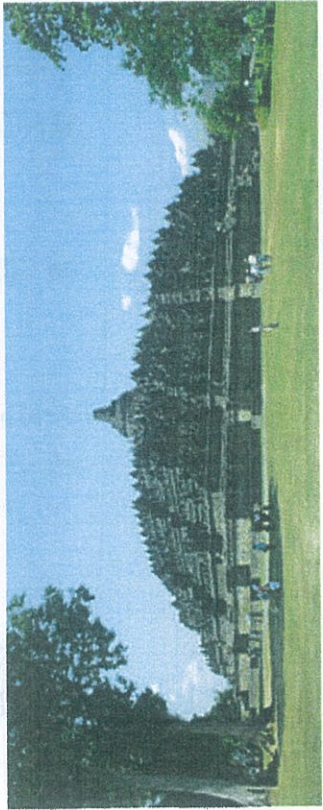


# ポロブドゥール参拝



ポロブドゥール寺院遺跡

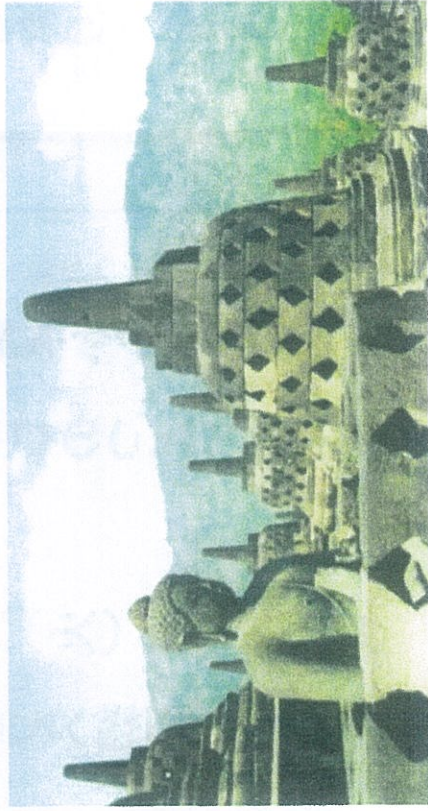
去る6月、弟と一緒に佛教の世界3大遺跡の一つポロブドゥール寺院に参詣することが出来た。他の2つの遺跡寺院は、カンボジアのアンコールワット、ミャンマー（旧ビルマ）のバガンである。私は、この度のご縁で三つとも参拝ができ、長年の願いがかなったことに感謝している。

この度のポロブドゥールは、インドネシア・ジャワ島中部のメラピ火山の山々に囲まれた高地にあり、7世紀の終りから8世紀にかけて建立されたと伝えられている。現地に立ってみると、本来の意味での寺院ではなく、お釈迦さまを埋葬したお墓、MSTUP A（ストパー）大きな土饅頭（どまんじゅ）を思い浮かべて頂くとイメージがわく。大おきな土饅頭と記したが実際は石造である。

ポロブドゥールは緑ゆたかな高原にあり遺跡総面積はおおよそ1,500,000平方メートル高さはもともと42メートルあった。現代は、落雷や地震の被害の為、頂上がなくなって、31,500メートルになっている。ポロブドゥールは、6つの回廊と中庭、3つの円形回廊からなる十階建ての寺院だ。

総延長5キロにも及ぶ回廊の壁には、お釈迦さまの誕生から涅槃に入られる間の佛伝が1460面におよぶ浮彫彫刻のレリーフ彫刻が時計回りに続いている。傷んでいるところもあり中々判別するのが短時間では難しかった。

ポロブドゥールの構造は、佛教の三界を表現されていると云われる。つまり、下から、基壇は人間のいる欲界、その上は神と人間が触れ合う世界である色界、さらに、その上部が無色界である。



ポロブドゥールの円形壇上の仏塔と仏像

- 1、欲界は、淫慾と食欲の2つの欲望にとらわれた我々の住む所だ。
- 2、色界は、欲界の2つの欲望は超越したが、物質的条件とらわれた有情が住む世界。
- 3、無色界、欲望も物質的条件も超越し、ただ精神作用にのみ住む世界であり、瞑想に住している世界。

ポロブドゥールでは、基壇が欲界、方形段が色界、円形段は無色界として表現されていて、人は下から上に登っていくにつれ、欲望にあふれた罪悪に満ちた世界から、悟りを目指す菩薩の修行を表現されている。

この遺跡は、ひさしく忘れ去られ密林のなかに埋もれていた。その原因については、火山灰によるものであるとすると、イスラム教徒による破壊から守るために人々が埋めたという説がある。何れにしろ、インドネシアは、現在、人口2億人をよゆうする大国で、人口の8割がイスラム教徒だ。イスラム教徒は、偶像（形あるもの）を極力排除する教団だが、自然の猛威の方が勝っていると考えられる。というのは、8000年前の爆発で黒煙が地球全体を覆うて、ものすごい気候変動があったという。

ジャワ島中部には、世界的に注目されるメラピ火山があり、活動は40万年前から始まり1万年前から活発になり、ほぼ1年中噴煙を上げ1548年以来68回噴火している。今回の旅では、曇り空の為、目にする事が出来なかった。

1800年代になってイギリス人によって発見されたという。

